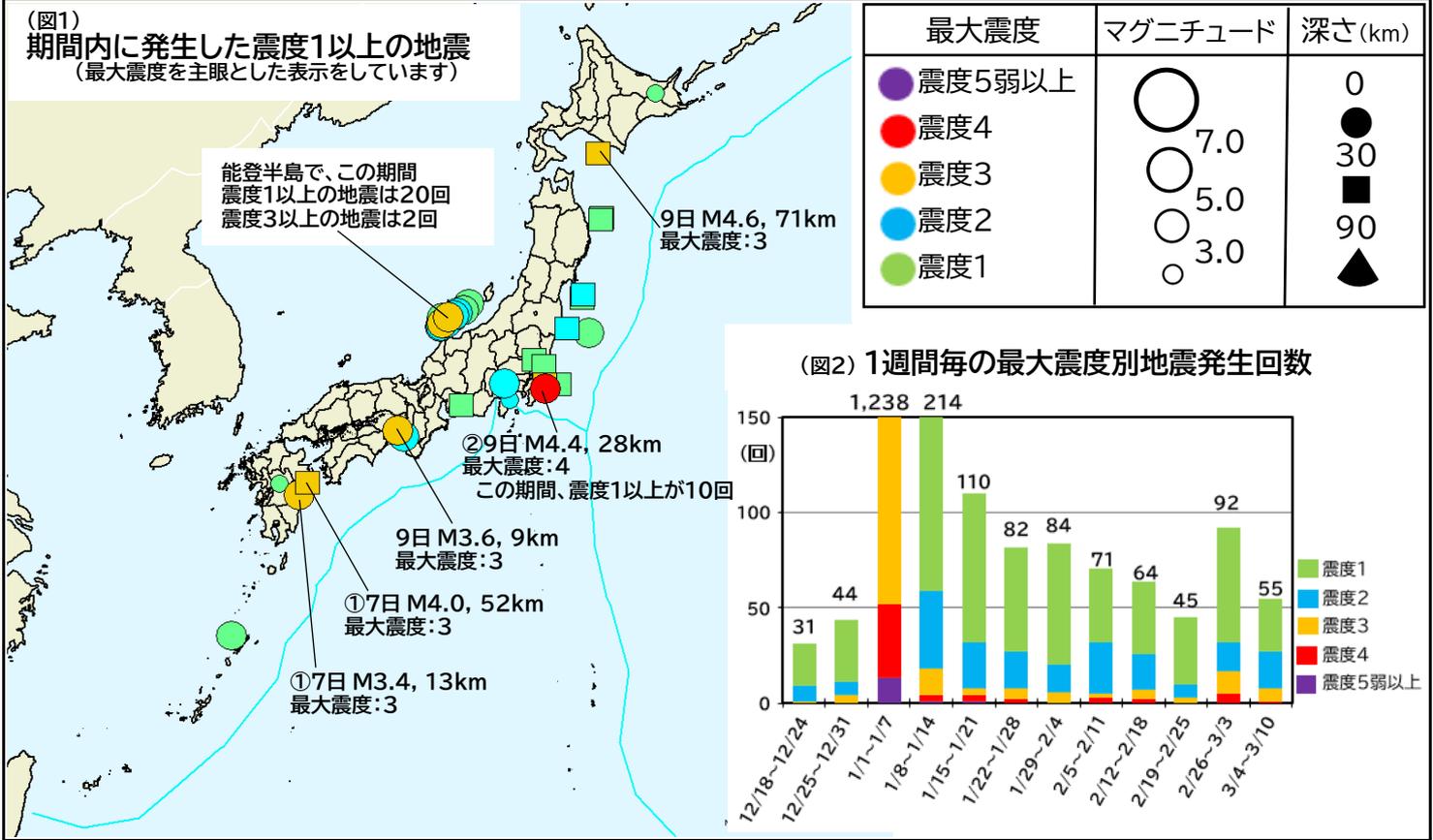


この期間の最大震度は4

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典: 気象庁震度データベース/地震情報)



主な地震の発生状況 (図1, 図2参照)

- この期間、震度1以上の地震が55回発生。最大震度は4。能登半島は少ない状況で経過 ■
- ①3月7日14時25分に宮崎県北部平野部で発生した地震(M3.4、深さ13km)により、宮崎県門川町で震度3を観測したほか宮崎県内で震度2~1を観測。同日、同じ宮崎県北部平野部で17時14分に発生した地震(M4.0、深さ52km)により、宮崎県佐伯市で震度3を観測したほか四国西部と九州東部で震度2~1を観測。この2つの震央地名は同じだが、前者は陸のプレート内、後者は沈み込んだフィリピン海プレート内で発生した地震であり発生様式が異なる。
- ②3月9日04時26分に千葉県東方沖で発生した地震(M4.4、深さ28km)により、千葉県一宮市と長南町で震度4を観測したほか、茨城県から静岡県にかけて震度3~1を観測。この付近では2月27日から地震が頻発している。

トピックス

- 改めて「津波てんでんこ」の語源 ■
- ・この時期になると、東日本大震災における津波災害を伝える報道が多くなり、「津波てんでんこ」という言葉も多用されるようになる。
- ・「津波てんでんこ」とは、津波襲来時の避難行動に関する三陸地方に古くから伝承されている言い伝えであるとの解説が一部で見られますが、それは間違いです。
- ・「津波てんでんこ」とは、三陸沿岸地方の一部に言い伝えられていた言葉を基にして、1990年代に作られた「津波防災標語としての造語」です。改めて、その成り立ちを以下のとおり紹介します。
- ・1990年、「全国沿岸市町村津波防災サミット」が岩手県田老町(現宮古市)で開催された。その中で、三陸沿岸在住の津波災害史研究家が特別講演を行った。この講演の中で、自身が昭和三陸津波で被災した例を取り上げながら、過去の津波災害では家族や集落住民が助け合って逃げようとしたがために共倒れとなるが多かった。一人でも多く助かるためには非情のようだが、各個人の判断で、各自「てんでんこ」に逃げる必要があることを訴えた。
- ・このサミットに参加していた防災情報・地震・津波の研究者が、講演に出てきた「てんでんこ」に逃げることに興味を示して、「津波」と「てんでんこ」を結びつけて「津波てんでんこ」という言葉を作ったのです。そしていつの間にか「津波てんでんこ」が三陸沿岸に昔からあった言葉のようになったのです。
- ・かくして生まれた「津波てんでんこ」は、1993年に発生した北海道南西沖地震で、周囲の人に注意を呼びかけて一緒に逃げようとしたがために逃げ遅れてしまい、多くの人が命を落としてしまった津波被害と対比される形で報道される等、次第に全国的に知れ渡る言葉となっていくことを1990年に特別講演を行った津波災害史研究家は、後日、自身の著書に記している。
- ・津波災害の軽減策として、自主的な避難「津波てんでんこ」は重要な対処策の一つである。
- ・先人の教えと現代の知識を組み合わせ、津波災害軽減についての周知・啓発に努めたいところです。

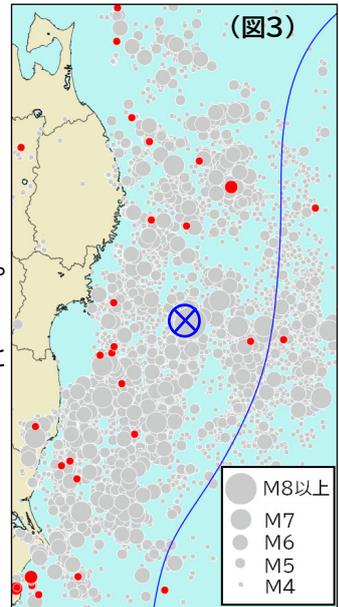


図3: 余震発生状況(M≧4.0)  
● 2011/1/1---2023/12/31  
● 2024/1/1---2024/3/10